

*沼津市明治史料館にあった24吋経緯儀などの写真

趣味で測量の歴史を調べているというアーカイブ室新聞の読者の浅野勝宣という方から「静岡県の沼津市明治史料館に24吋経緯儀等の写真がある」という情報をいただき、その写真7点が送られてきた。24吋経緯儀についてはこのアーカイブ室新聞に次のように4回にわたって記事を書いた。

- ・第395号 24吋、18吋、12吋トロートン・シムス経緯儀について (2010年11月9日)
- ・第50号 トロートン・シムス経緯儀の水平軸架台の写真発見 (2008年8月8日)
- ・第8号 1875年 TROUGHTONSIMMS 天文経緯儀と TAMAYA & CO. GINZA TOKYO の天文経緯儀 (天文情報センター・アーカイブ室発足に当たって) (2008年5月14日)
- ・第3号 水沢にもあった1875年製トロートン経緯儀望遠鏡 (2008年4月28日)

24吋経緯儀については、筆者はそのスケッチ図しか手にしたことがなかった。今回、沼津市明治史料館の「大川通久関係資料」の中に24吋経緯儀の写真があり、それを入手できた。写真1、2は沼津市明治史料館所蔵の写真であり同資料館の許可を得て掲載している。

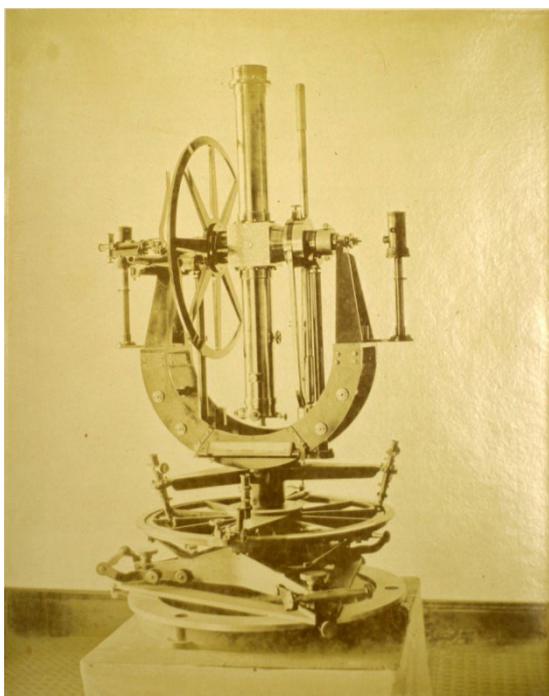


写真1 24吋経緯儀

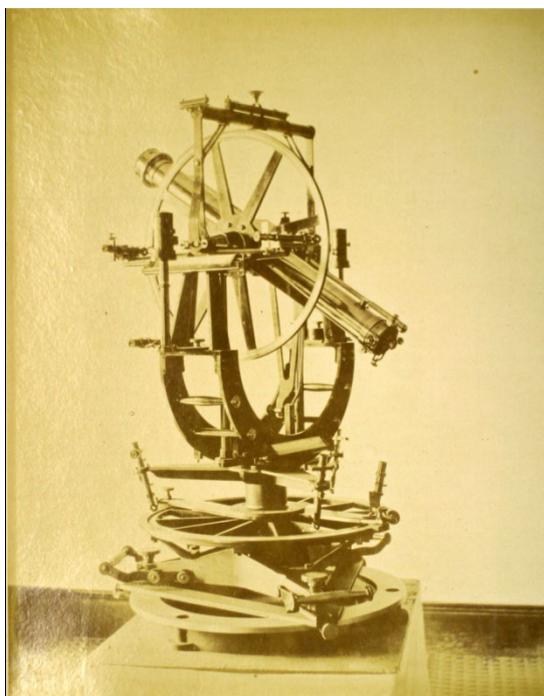


写真2 24吋経緯儀-2

筆者が2008年に入手し、アーカイブ室新聞にスケッチ画として掲載したものが写真3である。24吋経緯儀は1888年に内務省地理局、海軍省観象台、東京大学天象台が統合され、海軍省観象台があった麻布区飯倉狸穴に東京大学東京天文台が置かれた際、内務省地理局

から東京大学東京天文台に移管されたもので、電波天文グループが6mミリ波電波望遠鏡作成時に角度読み出しにその目盛環を転用するまでは原形をとどめて現存していたと思われる。現在は望遠鏡部と高度軸架台、高度軸目盛環、水平軸目盛環は存在しているが、水平軸架台、目盛環読み取り顕微鏡などは行方不明である。

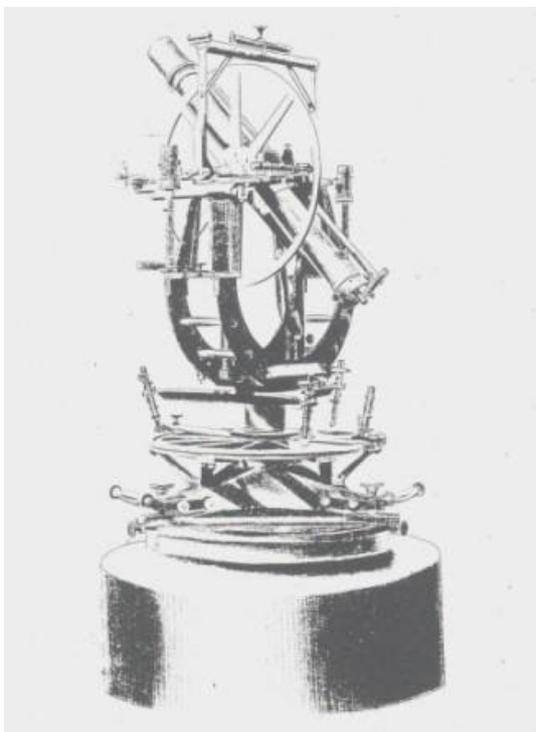


写真3 24吋経緯儀にスケッチ画

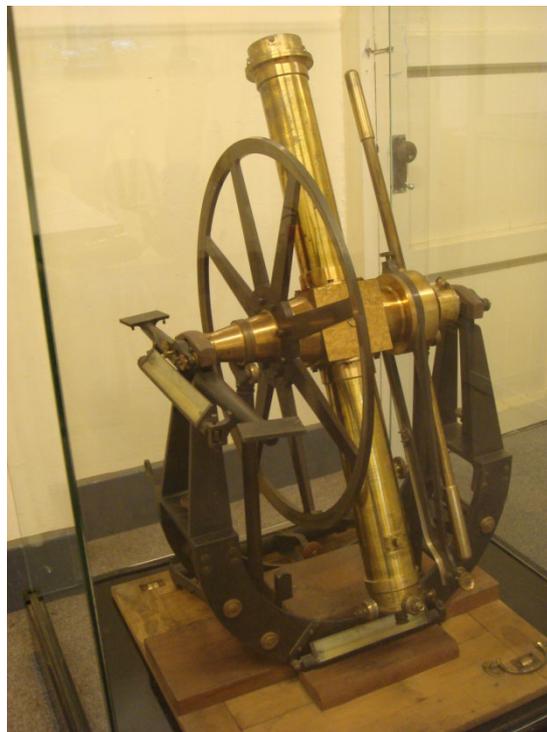


写真4 国立天文台にある現状

写真4は、現在国立天文台に現存しているものを復元したもので、国立天文台歴史館(65cm赤道儀望遠鏡ドーム)に展示している。

沼津市明治史料館の大川通久関係資料の解説では、大川通久氏について下記の記述がある。「大川通久(千作・竹洲・好古庵台北、1847～97)は、昌平黌に学んだ後、文久3年(1863)御鳥見役見習並となり、その後陸軍への編入を経て維新後沼津に移住、明治2年(1869)沼津兵学校資業生に及第した。5年(1872)陸軍教導団工兵生徒に編入され上京、翌年には大蔵省土木寮に出仕した。以後、内務省・農商務省で測量に従事した。26年(1893)退官後は、東京神田に清華堂という印刷会社を開業し、地図類の印刷を専門に手掛けた。地図作成や測量技術などに関し、「洋々社談」・「地学雑誌」・「写真襍誌」といった諸雑誌に投稿したことも知られる。」とある。

上記にあるように、大川通久氏は内務省地理局で測量を行ったと思われる、その関係で内務省地理局が測量に使った機器類の写真を持っていたと思われる。

今回、入手した大川通久関係資料は、平成19年(2007)5月3日付で、大川周作氏から沼津市明治史料館に寄贈されたものであり、沼津兵学校第2期資業生大川通久が残した資料ということになっている。以下に使用する写真5～写真11は沼津市明治史料館所蔵であり、

今回のこの記事に使用の許可を得たものである。写真 5 が、沼津市明治史料館所蔵大川通久関係資料のアルバムであり、この中に測量関係の機器の写真があり、写真 1、2 の 24 吋経緯儀、18 吋経緯儀（写真 6）、12 吋経緯儀（写真 7）がある。写真 6 の 18 吋経緯儀は国立天文台水沢 VLBI 観測所に原形をとどめて現存するものであり、写真 7 の 12 吋経緯儀は、これも原形をとどめ国土地理院に現存するものと思われる。



写真 5 大川通久関係資料のアルバム

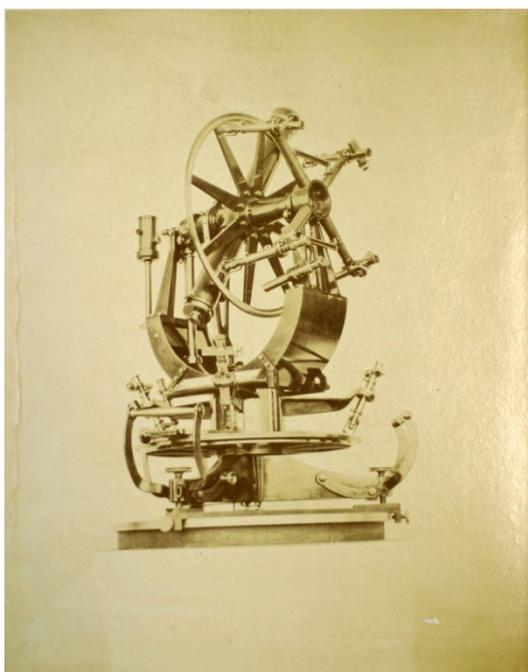


写真 6 18 吋経緯儀

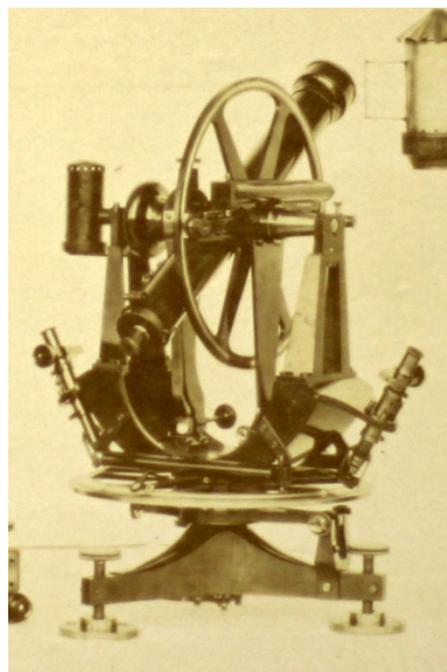


写真 7 12 吋経緯儀

他に、8 吋経緯儀(写真 8)、基線尺の検定器と思われるもの(写真 9)、トロートン・シムス子午儀と思われるもの(写真 10)、天頂儀(写真 11)がある。

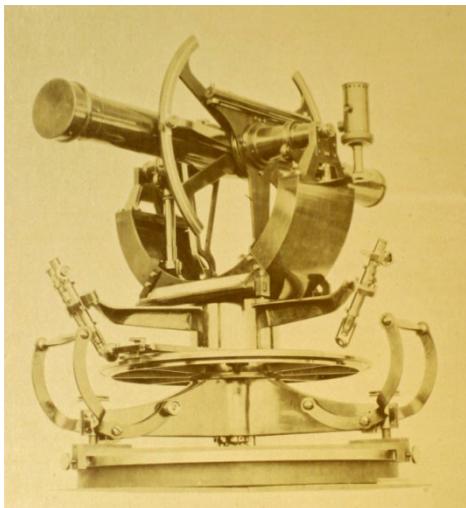


写真 8 8 吋経緯儀

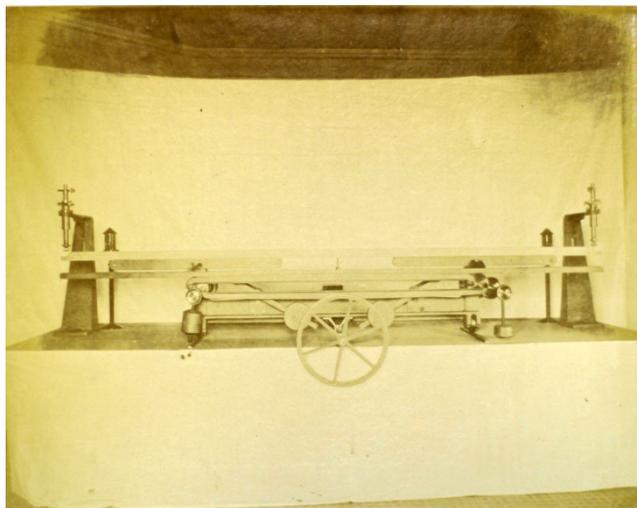


写真 9 基線尺検定器(?)

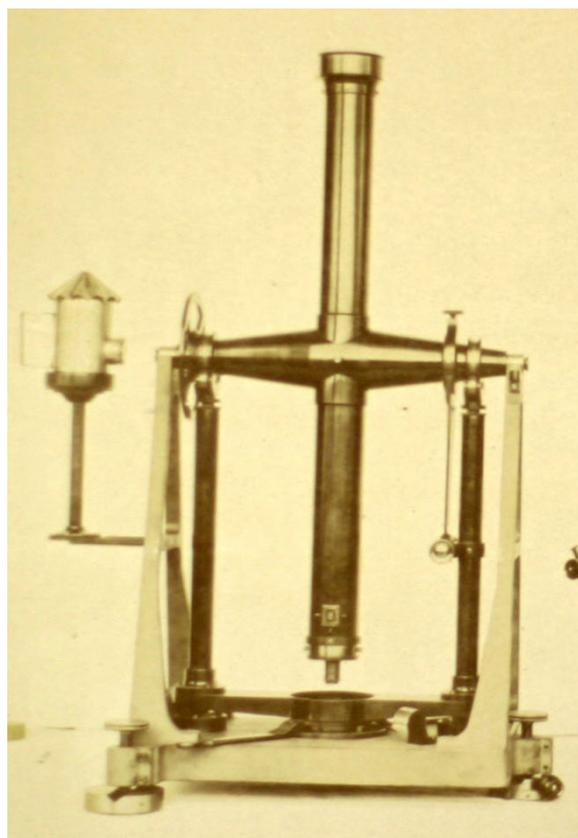


写真 10 トロートン・シムス子午儀

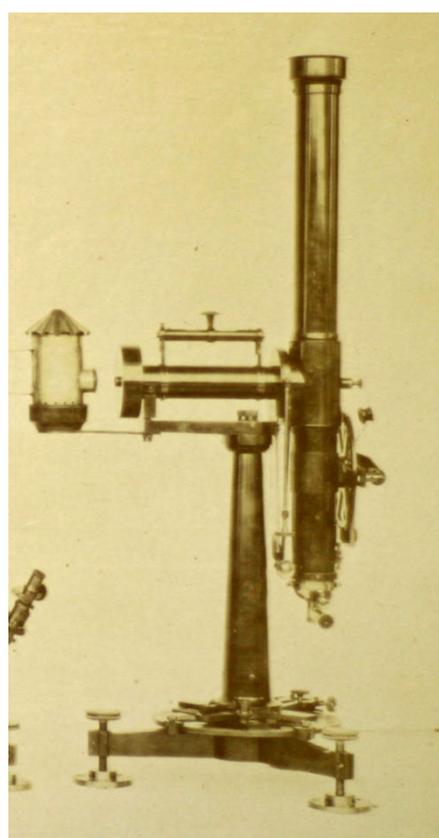


写真 11 トロートン・シムス天頂儀

写真 10 のトロートン・シムス子午儀は、国立天文台の子午儀資料館に現存する子午儀と思われるが確証はない。現在、国立天文台にあるトロートン・シムス子午儀が写真 12 である。また写真 11 の天頂儀は東京大学東京天文台（国立天文台の前身）の聯合子午儀室 3 号

室にあった天頂儀と思われるが、この天頂儀は行方不明なので現在は検証が出来ない。



写真 12 国立天文台に現存のトロートン・シムス子午儀

筆者は、写真 12 のトロートン・シムス子午儀が国立天文台に現存する最古の望遠鏡と思っている。今回は、国立天文台に原形をとどめていないが現存する 24 吋経緯儀の写真が発見された意義は大きいと思っている。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp